

「栄養の日・栄養週間」が生まれ変わります！

栄養の日

たのしく食べる、カラダよろこぶ

8/4 栄養の日 8/1-7 栄養週間

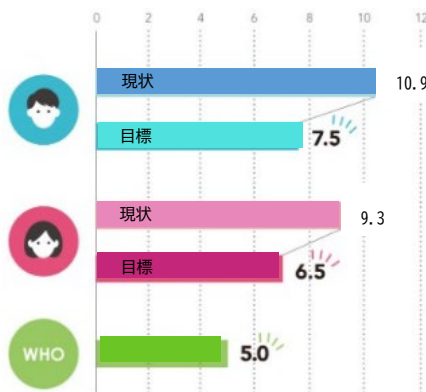
2025年の「栄養の日・栄養週間」は全国各地の管理栄養士・栄養士の活動をより広く発信することを趣旨としてリニューアルします！国においては、注力して取り組むべき主な栄養課題として、「食塩（ナトリウム）の過剰摂取」、「若年女性のやせ」、及び「経済格差に伴う栄養格差」を掲げ、誰一人取り残さない栄養改善の取り組みを推進しています。

「栄養の日・栄養週間 2025」では管理栄養士・栄養士の多様な活動の場において栄養課題の解決を使命として国民運動を展開し、更なる「ジャパン・ニュートリション」管理栄養士・栄養士の活動範囲の拡大とともに、その成果を国内外に発信する機会とします。

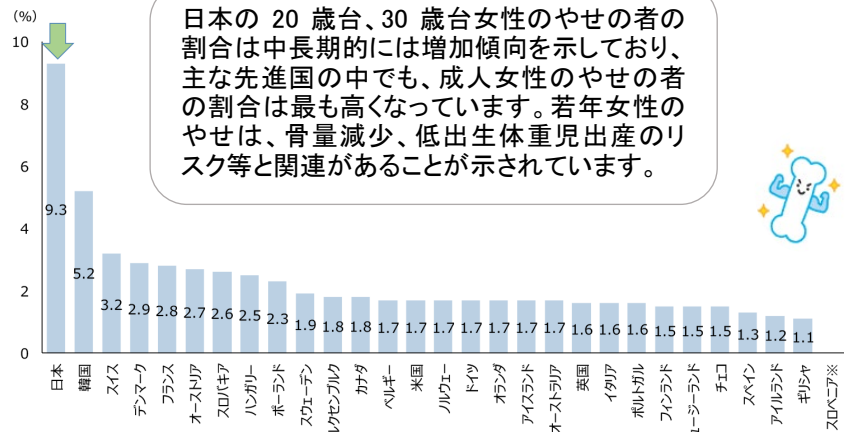
公益社団法人日本栄養士会ウェブサイトより

■ 食塩（ナトリウム）の過剰摂取

「食塩の過剰摂取」は高血圧の人、あるいは、高齢者の栄養課題だと捉えている人が多いかもしれませんが、しかし、日本では男女とも20歳以上の全ての年齢階級で「健康日本21（第二次）」の目標には達していない状況であり、全世代が取り組むべき課題となっています。



■ 若年女性のやせ

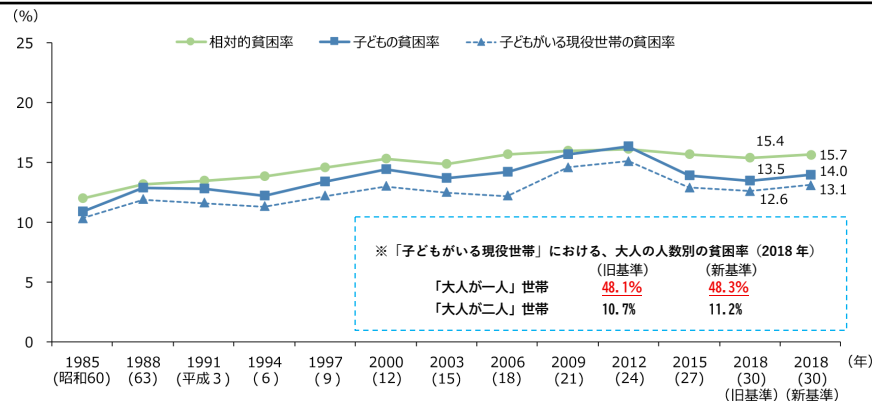


出典元：関東労災病院 治療就労両立支援センター 予防リーフレット改変

■ 経済格差に伴う栄養格差

2018（平成30）年の日本の「相対的貧困率」は15.4%、「子どもの貧困率」は13.5%となっています。また、主な先進国で国際比較すると、日本は「子どもがいる現役世代のうち、一人親世帯の貧困率」が高くなっています。国民健康・栄養調査結果によると、食品を選択する際に「栄養価」を重視すると回答した者の割合は、世帯所得が200万未満の世帯員で有意に低くなっています。

出典元：厚生労働省ウェブサイト 健康的で持続可能な食環境戦略 イニシアチブ 日本の栄養・食生活と健康に関する課題より抜粋



令和7年度大阪府心の輪を広げる障がい者理解推進事業

障がい者に対する府民の理解の推進を図るため、府民を対象に「心の輪を広げる体験作文（電子メールでの応募可）」「障がい者週間のポスター（小中学生対象）」を公募しています。

応募期間：令和7年7月1日（火）～令和7年9月2日（火） ※必着

※詳細は大阪府福祉部障がい福祉室障がい福祉企画課「障がい福祉行政情報」ホームページをご覧ください。



重度障がい者施設等での歯科保健指導奉仕活動 実施施設募集

大阪府歯科衛生士会では、障がい児や障がい者への口腔衛生指導や歯みがき指導を行っています。

治療困難な方にとって毎日のお口の手入れは、健康を維持するためにとっても大切です。お困りのことやわからないことなどがありましたらご相談ください。一緒に考えていきたいと思います。

施設等での歯科保健指導をご希望の方は、当会までお問い合わせください。